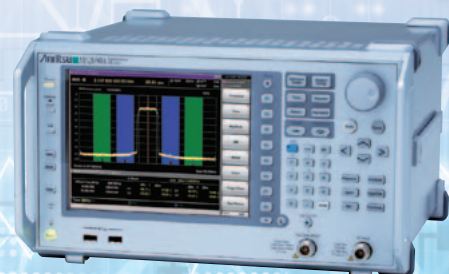


基地局アンプ評価の提案

安定した生産と次世代通信対応のために

次世代通信に向けた 生産・評価設備の準備は進んでいますか？

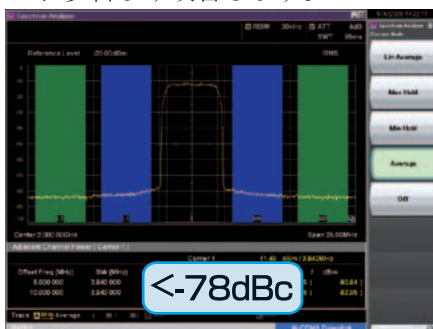
MS269xA シグナルアナライザは、次世代の100MHzを超える
広帯域通信に対応できるプラットフォームを持った
シグナルアナライザです。



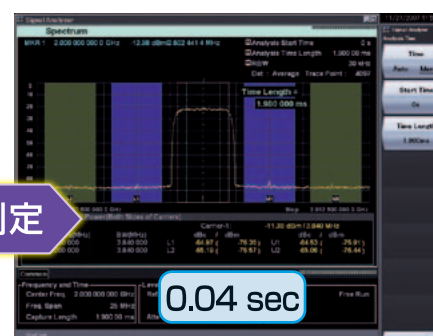
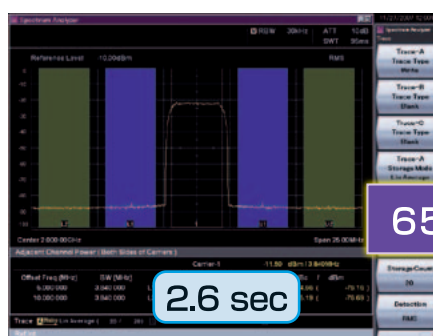
シグナルアナライザ
MS2690A/MS2691A/MS2692A

高性能掃引型スペアナと高速FFTアナライザが一体化

掃引型スペアナは、W-CDMA 1波で78dBc、4波で72dBcのACLR性能を持ち、この広ダイナミックレンジで、歩留まり改善します。



シグナルアナライザはFFTを用いることで、ACLR測定に必要であったAverage測定を不要とした超高速測定が行え、評価工数を劇的に低減できます。



スペクトラムアナライザ

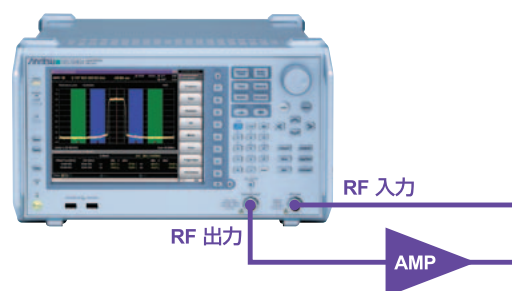
シグナルアナライザ

(例:W-CDMA,SPAN 25 MHz, RBW 30 kHz)

広帯域ベクトル信号発生機能内蔵 (オプション MS269xA-020)

ベクトル信号発生機能も内蔵できます。マルチキャリア信号も発生可能で、1台でACLR、EVMなどの評価が行えます。

- ・周波数範囲：125 MHz～6 GHz
- ・RF変調帯域幅：120 MHz
- ・BER測定機能を内蔵
- ・AWGN付加機能を内蔵



メリット

歩留まり改善

- W-CDMAのACLR測定、1波:78dBc、4波:72dBcの実力をもったスペクトラムアナライザで、真のACLRを安定して測定します。

調整工数削減

- 広帯域FFTにより、Average測定が不要になり、ACLR測定時間を数十倍改善します。

生産設備管理の負担軽減

- スペクトラムアナライザ + 信号発生器を一体化したことにより、設備管理を容易にし、スペースも1/2以上削減します。

将来の設備投資抑制

- 次世代通信を見据えたプラットフォーム(解析帯域 125MHz)を提供し、各種解析ソフトでマルチ対応します。

オーダリング・インフォメーション

本体	MS2690A	シグナル アナライザ (50Hz~6.0GHz)
	MS2691A	シグナル アナライザ (50Hz~13.5GHz)
	MS2692A	シグナル アナライザ (50Hz~26.5GHz)
ハードウェアオプション	MS2690A/91A/92A-020	ベクトル信号発生器 (125MHz~6.0GHz)
	MS2690A/91A/92A-077	解析帯域幅拡張 62.5MHz
	MS2690A/91A/92A-078	解析帯域幅拡張 125MHz (MS269xA-077が必要)
ソフトウェアオプション	—	各種変調解析ソフト (W-CDMA、Mobile WiMAX、LTE、TD-SCDMA)
	—	各種波形生成ソフト (IQproducer) (W-CDMA、Mobile WiMAX、LTE、Multi-Carrierなど)

・IQproducer™は、アンリツ株式会社の登録商標です。